

二〇二三年度国文学会彙報

遊女と〈恋愛〉——樋口一葉「たけくらべ」とその周辺——

本学准教授 笹尾佳代

・講演会

馬琴の流行、「八大伝」の流行 同朋大学名誉教授 服部 仁

△新入生歓迎会▽ 学生会主催

二〇二三年四月二日（日）

良心館三〇三教室

△新入生向け履修相談会▽ 学生会主催

二〇二三年四月五日（水）

良心館二〇六教室

△国文合宿▽ 学生会主催

二〇二三年九月六日（水）、二〇二三年九月七日（木）

同志社びわこリトリートセンター、近江神宮

△ゼミ相談会▽ 学生会主催

二〇二三年十一月一日（金）、二〇二三年十一月三日（月）

良心館一〇六教室

△国文遊歩▽ 学生会主催

二〇二四年二月一日（日・祝）

金剛能楽堂にて能楽の体験・鑑賞

二〇二三年度国文学会活動状況

△国文学会総会・春季研究発表会▽

二〇二三年六月一八日（日） 良心館二〇三教室

・総会

・研究発表

私の「肌感覚」です——肌感覚の新用法——

本学大学院博士課程前期課程 谷口 悠

漢文訓読による「スナハチ」の意味変化の考察

——「即」「則」「乃」「輒」を中心に——

本学外国人留学生助手 胡 鴻洋

楽亭西馬作『岸柳四魔談』と馬琴黄表紙

本学准教授 三宅宏幸

△国文学会秋季研究発表会・講演会▽

二〇二三年二月三日（日） 良心館一〇七教室

・研究発表

吉屋信子『睡蓮』論——〈同情〉という規範をめぐる——

本学大学院博士課程前期課程 神戸啓多

〈講演会〉 院生部会主催

二〇三三年一月二五日(土)

尋真館地下一階教室(ZB1)

理論／テクストをいかにずらすか

——ジェンダー批評の現在地を探る——

近畿大学講師 泉谷 瞬

〈院生合宿〉 院生部会主催

二〇三四年二月二四日(土) ～二五日(日)

彦根城、彦根城博物館

〈研究発表会〉 院生部会主催

二〇三四年二月二四日(土)

同志社びわこリトリートセンター

〈同志社国文学〉

第九九号 二〇三三年一月二〇日発行

収録論文四編、実践報告一編

第一〇〇号

収録論文四編、資料紹介一編、索引一編

〈国文学会会報〉

第五一号 二〇三三年三月二〇日発行

二〇三三年度修士論文題目

『万葉集』防人歌における独自性の所在

——他歌群との比較を通して——

吉屋信子『花物語』論

——武器としての差異、戦略としての反復——

特権的主体の揺動を描く

——伊藤整『鳴海仙吉』論——

新語「じぶんごと」の使用状況と増加要因

二〇三三年度卒業論文題目

〈垣見修司ゼミ〉

記紀神話におけるアマテラスの性別について

——なぜアマテラスは女神なのか——

『古事記』におけるサホビメの死の理由

記紀風土記にみえる上代温泉

『万葉集』の五四・五六番歌の前後関係について

笠女郎歌群の構成と五九一番歌の問題の所在

浅野 サマンサ芽育実

伊藤 奈葉子

花田 愛美

樋口 妃奈乃

鷲根 花歩

神戸 啓多

岡本 草平

谷口 悠

日比野 由佳

「さ額田」と「左野方」から考える「狭野方」

竹野美結

——植物説と地名説——

「玉響」の訓と意味の検討

——漢籍における「玉」と「響」の用例の調査を通して——

渕田紗希

『万葉集』巻十五・遣新羅使贈答歌群の構成

酒谷竜伍

△岩坪健ゼミ△

『和泉式部日記』における月と雨の効果

東美沙希

『源氏物語』における弘徽殿大后的存在意義

國廣悠真

——悪役説の再考——

『源氏物語』における葵の上の役割と効果

松本愛美

『源氏物語』における末摘花の七絃琴の演奏の魅力

飯田要次郎

——月夜に着目して——

若菜上巻における光源氏と朧月夜の君の関係再燃

——三つの視点からみた朧月夜の君の役割——

高橋知輝

『源氏物語』における花散里の特異性と効果

今田晴菜

衣裳描写が明石の君の人物像へ与える影響

島倉有希

『源氏物語』における明石の君の「身のほど」意識の変遷

中山萌

朝顔の姫君による源氏拒否の理由

平松香琳

——物語内容と物語構成の観点から——

『源氏物語』における朝顔の姫君の存在意義

前田凜

『源氏物語』における幼い女性たちの人物造型

——女三宮と紫の上の形容表現を比較して——

福島奏

天体描写からみる『源氏物語』の登場人物

柴田彩奈

薫物合が『源氏物語』の展開に与える影響

松田空奈

『源氏物語』からみる宮廷女性の美意識

太田知那

『源氏物語』における「長恨歌」の影響

前田早貴子

△源健一郎ゼミ△

『今昔物語集』における晴明譚

竹村宙

——式神と権力者との関係を比較して——

『今昔物語集』本朝仏法部における蛇の描かれ方

山岡夕莉

延慶本『平家物語』冒頭と木曾義仲の滅びについて

森田諒一

——平清盛・俊寛との比較を通じて——

延慶本『平家物語』における清盛の人物像

瀧本双葉

——出生譚を中心に——

覚一本『平家物語』における管弦の役割

——「狂言綺語」観を中心に——

川崎莉彩

覚一本『平家物語』における〈自殺〉の意義

右田美冬

覚一本『平家物語』における平家の滅び

——清盛の悪行——

中島香子

覚一本『平家物語』は頼朝を如何に演出するか

——諸本比較・人物比較を中心に——

西本和真

覚一本『平家物語』にみる重衡物語の様相

——三人の女性の出家の真相をめぐって——

大庭和佳

覚一本『平家物語』における天狗の物語的效果

大東優一

覚一本『平家物語』における生と死の繋がり

——平家嫡流を中心に——

白方佑果

『平家物語』における直実の役割

——普遍性を背負って——

松本はな

実盛と兼光

——章段名比較を通じて——

小森梨央

酒吞童子が鬼として退治されることの意味

——御伽草子『酒吞童子』『伊吹童子』を通して——

江口智哉

〈柳川響ゼミ〉

『今昔物語集』本朝仏法部における観音信仰と夢の関係

鈴木総一郎

『今昔物語集』に描かれる近江国の特徴

——播磨国説話との比較を通して——

別井大樹

『今昔物語集』巻二十七第五話「冷泉院水精成人形被捕語」に

関する考察

加藤慧悟

『宇治拾遺物語』の「猿神退治」

——第一一九話「吾妻人、生贄をとどむる事」について——

柚木瞳子

御伽草子「小町草紙」における在原業平の役割

山本美結

〈大山和哉ゼミ〉

八代集における「恋死」歌の諸相について

『更級日記』中の和歌から見る孝標女の四季

自然物を含む式子内親王歌の特徴及び独自性について

菊野春菜

亀田優香

坂野明日美

『定家卿百番自歌合』六番「帰雁」における趣向の「前進」について
岩田泰治

初期の与謝蕪村の俳画と南画の作品群の比較から表出する俳画の精神性
池田優希

正岡子規と『古今集』の関連について
山本将伍

△三宅宏幸ゼミ▽

〈道成寺物〉の祖について
寺澤杏海

『蘆屋道満大内鑑』葛の葉狐の道行に関する一考察

——歌舞伎・文楽の演出を中心に——
永原萌音

『雨月物語』『菊花の約』考
大橋正英

——「信義」への新たな考え——

四世鶴屋南北『靈験亀山鉾』考
小澤京香

——『靈験曾我籬』との比較を通して——

△加藤大生ゼミ▽

「老練」の形骸化

——谷崎潤一郎「小さな王国」論——
玉川結菜

谷崎潤一郎「途上」論
松葉真緒

——筆子の女性像を中心に——

宮沢賢治「どんぐりと山猫」論
向井陽菜

——馬車別当の表現に着目して——

語りと〈他者〉の解放

——夢野久作「瓶詰地獄」論——

江戸川乱歩「心理試験」に関する考察

——精神分析の観点に着目して——

△西川貴子ゼミ▽

芸術家「私」が語る〈柳湯の事件〉

——谷崎潤一郎「柳湯の事件」論——

芥川龍之介「報恩記」の構造について

——「恩を返す話」・『指輪と書物』との比較から——

澤田さくら

江戸川乱歩「人でなしの恋」

——京子の語りから見る乱歩の理想——
鈴木七瀬

『菌車』における「不安」のイメージ
有村育美

プロレタリア文学としての「キャラメル工場から」

今井日向子

井伏鱒二「鯉」に描かれるユーモアについて
喜多衿紗

夢野久作『白菊』論

——場の設定から見る夢野の探偵小説観——

武田直夕

宮沢賢治「銀河鉄道の夜」における切符

多田麻央

——第四次稿を中心に——

岡本かの子「金魚撩乱」に見る「女性解放」

大佐古 萌

中野重治「歌のわかれ」論

玄 侑香

——「恋」とわかれて進む道——

大江健三郎「芽むしり仔撃ち」における「自由」について

沖田英里

——《動物》の表象を視座として——

神林長平『プリズム』における時代性

濱田 あやの

——「ヘクサグラム」を中心に——

「爪と目」における視覚の作用

山本楓華

——「わたし」と「あなた」について——

震災から見る『愛の夢とか』

——「三月の毛糸」と「十三月怪談」をつらぬくもの——

岡田 創

〈笹尾佳代ゼミ〉

泉鏡花「朱日記」論

杉江 亜衣梨

——救済される雑所と宮浜——

江戸川乱歩『二銭銅貨』論

松平 征仁

——装置としての二銭銅貨——

永井荷風『つゆのあとさき』論

山本拓実

——荷風が描こうとした「新しい女」——

安部公房『箱男』における近代社会と他者

村田 正宗

——箱男のアイデンティティを巡って——

〈瀬崎圭二ゼミ〉

泉鏡花「龍潭譚」論

——身代わりの「胎児」と《誕生》の物語——

藤原 有梨

夏目漱石「琴のそら音」の同時代受容とその背景

樋口 希

田山花袋「蒲団」論

伊藤 心

——時雄と女学生——

永井荷風「狐」論

岡本 珠緒

——小石川と狐と「私」——

日常に侵食する「見えない」恐怖

檜崎 凌功

——江戸川乱歩「人間椅子」論——

堀辰雄『美しい村』

——「私」に見出される「美しさ」について——

西尾 美咲

堀辰雄「風立ちぬ」における〈窓〉の役割

小川 彩葉

太宰治「女生徒」論

——女生徒の苦悩と明日への覚悟——

加藤 梨沙

内田百閒「サラサーテの盤」における恐怖の構造

織田 遼子

開高健「裸の王様」論

——明瞭な作品設定が指す社会批判——

中村 彩樹

メディアから読み解く二重の「伝達」

——村上春樹『風の歌を聴け』論——

河本 陽太

村上春樹「図書館奇譚」論

——「僕」と母親の支配関係について——

鎌田 響子

小川洋子「ドミトリイ」論

——「学生寮」と「モラトリウム」を中心に——

堀士 芽花

△藤井俊博ゼミ▽

美的語詞「清ら」の文学的意味・用法

——「清げ」との比較を通して——

箱田 有紀

覚一本と延慶本の文体的特徴に関する考察

——「死ぬ」とその同義語を中心に——

矢島 七海

江戸時代の日記・紀行文における過去・完了の助動詞の出現傾向について

関口 楓人

男性雑誌と女性雑誌の広告表現の比較

秋山 菜央

対象年齢の異なる文章間に見られる文体的特徴の差異について

金坂 奏希

「よろしかったでしょうか」の意味機能

——寄り添い・断言躊躇を演出する

羽場 友亮

確認表現または疑問表現——

「ボンコツ」の用法変化についての考察

痛みに関する表現の変遷

——オノマトペを中心に——

横田 夏澄

商品名に見られる位相性

——パンの命名を中心に——

濱西 晴生

「あいみょん」歌詞考

——通時的な観点とほかアーティストとの比較から——

櫻井 かりん

△山本佐和子ゼミ▽

断定の助動詞「じゃ」について

新島襄の翻訳漢語「自由教育」の成立と定着過程について

金岡 陸

辻 智香子

「炊いたん」の語史

霜 永有柚実

『平家物語』における敬語表現「御ゝなる」・「御ゝあり」

——延慶本と覚一本を中心に—— 万 田 果 穂

女性の手紙文における言文一致化の時期について

——書簡文例集の調査から—— 大 石 珠 稀

『小公子』の翻訳における女性の話し方の変化について

青 木 彩 華

『ハリーポッターと賢者の石』における児童書翻訳の問題

——書名とフォントを中心に—— 宮 原 花 奈

ホームランの実況中継にみられる定型化

——スポーツ実況に表れる日本的特徴—— 山 中 康 誠

若者言葉における「おほこい」の意味用法

——X (旧 Twitter) と Instagram の差異——

田 中 美 希

若者における「大丈夫」の使用について

——同志社大学準硬式野球部への調査をもとに——

谷 口 啓 太

岡山方言「たう」の意味範囲について

筑後方言における「タイ」と「チャン」の意味機能

三 原 有 紗
加 藤 綾

沖縄県本島中部におけるウチナーヤマトウグチ「ハズ」の使い方について

——標準日本語「ハズダ」との比較—— 新 城 り ら